

本科 1 期 6 月度

解答

Z会東大進学教室

早慶大世界史



8章 近世Ⅲ

問題

【1】

解答

- 1 (b) 2 (d) 3 (b) 4 (a) 5 (d) 6 (c) 7 (a) 8 (b)
9 (d) 10 (b) 11 (c) 12 (a) 13 (b) 14 (c) 15 (a) 16 (c)
17 (c) 18 (a) 19 (b) 20 (d) 21 (c) 22 (b) 23 (b) 24 (c)
25 (a)

解説

スペインの絶頂期に関する選択問題。設問の1・10・11・24が受験レベルを超える問題でいかにも上智大学らしい。その他は一つ一つ丁寧に検証していけば解ける問題である。このような「確実に点を取れる」部分を逃さないようにしよう。

- アラゴン王フェルナンド2世は1469年にカスティリヤ王女イサベルと結婚した。1474年にイサベルはカスティリヤ女王となり、79年にはアラゴンとカスティリヤが合邦してスペイン王国が成立し、アラゴン王フェルナンド2世はスペイン国王フェルナンド5世となり、イサベルと共同統治した。さて空欄1では「アラゴンの」と問われているため、アラゴン王としての名、フェルナンド2世が正解となる。
- 先にも述べたように、1479年に成立したスペイン王国はアラゴン王国とカスティリヤ王国の合邦によるものだから、カスティリヤが正解となる。
- ・4 基本問題。神聖ローマ皇帝位は1438年以降ハプスブルク家が世襲している。同家は婚姻関係から1516年のカルロス1世の即位後、スペイン王家ともなった。
- ハプスブルク家本来の所領とは現在のオーストリア地方である。
- フランドル地方とはベルギー西部・北フランス・南オランダ一帯をさす。デンマークはこれに当てはまらない。
- 「13世紀後半」と「シチリア」からシチリアの晩鐘が正解。13世紀からフランスのアンジュー家が支配していたシチリア島で、1282年に起きたフランスへの反乱である。復活祭前夜の祈りの晩鐘を合図にパレルモで反乱の火の手が上がり、やがて全島でフランス人の大虐殺が行われた。この事件をきっかけにシチリア島を獲得したのがアラゴン王ペドロ3世である。
- ・9 スペイン＝ハプスブルク家の所領を思い出そう。ナポリ王国はイタリア半島の南部に存在した。
- ・11 空欄10と空欄11にはある同一の地域の、前者には古名が、後者には現在の名が当てはまることが問題文から読み取れる。ここで10と11の選択肢を組み合わせて考えてみると、10のフアナ島と11のキューバが、10のエスパニョーラ島と11のサント＝ドミンゴ（現在のドミニカ共和国が位置する）が、10のサン＝ファン島と11のプエルトリコがそれぞれセッ

トとなる（ちなみに10のサンサルバドル島はコロンブスによって名づけられ、英語ではワトリング島と呼ばれた）。よってキューバ、ドミニカ共和国、プエルトリコという3つの選択肢から、当時（16世紀）のスペイン＝ハプスブルク家のカリブ海域の支配拠点を選ぶことになる。

エスパニョーラ島は「小スペイン」を意味し、1492年にコロンブスが到達した後、97年にサント＝ドミンゴが建設された。これは新大陸最古の植民地であり、スペイン最初の植民地としてスペイン本国の行政・経済制度・宗教などが導入されるなど、西インド諸島のスペイン領の中心地として発展した。因みにキューバは1492年にコロンブスが到達した後、1511年にスペイン領となり、プエルトリコは1493年のコロンブス到達後、1508年に植民地としてサン＝ファンが建設されている。よって10にはエスパニョーラ島が、11にはサント＝ドミンゴが入る。

- 12 新大陸とトウモロコシはセットで覚えておくこと。
- 13 基本的な問題。(d)のマチュピチュは宗教的都市と考えられている。
- 14 消去法で考えてみよう。インカ文明は文字を持たず、その記録方法はキープ（結縄）だったから(a)は正しい。また、帝国内には道路が整備され、これを用いた駅伝制度が発達していたから(b)も正しい。また、国王は太陽神の化身として祭政と軍事における最高権を有し、神政政治を行っていたから(d)も正しい。そこで(c)について考えてみると、インカは正確な暦を使用してはいたが、それはマヤ文明で発展した暦の精密さには及ばなかった。よって(c)を正解とするのが最も妥当であろう。
- 15 当時のヨーロッパに東方のオスマン帝国が与えていた影響は大きい。とくに1453年にビザンツ帝国が滅ぼされ、コンスタンティヌス大帝が築いた都コンスタンティノーブルがオスマン帝国の都イスタンブルとなってからは、その精神的打撃も増していた。
- 16・17 カルロス1世のスペイン国王としての治世は、1516年から56年にかけてである（神聖ローマ皇帝カール5世への即位は1519年）。これとほぼ同時代のオスマン帝国のスルタンは“立法者”として知られるスレイマン1世（位1520～66）である。第1次ウィーン包囲（1529）がカール5世に打撃を与えたことから類推できる。
- 18 カール5世がルターの宗教改革に直面した神聖ローマ皇帝であることから、すぐに正解が選べるはずだ。
- 19・20 カール5世は1556年に所領を2分割し、スペイン・ネーデルラント・ナポリ王国を子のフェリペ2世に、神聖ローマ皇帝位とオーストリア領を弟のフェルディナント1世に譲っている。
- 21 フェリペ2世のカトリック政策と、これに対する新教徒によるオランダ独立戦争（1568～1609）を想起しよう。
- 22 ウェストファリア条約（1648）による独立の承認は、オランダの他にスイスも押さえておきたい。
- 23 選択肢からここに当てはまるのはイギリス国王であることが分かる。時代的にも、フェリペ2世と結婚したメアリ1世によるカトリック政策を覆した王としても、エリザベス1世が適当である。

- 24 この設問では北アメリカ大陸における最初の恒久的なイギリスの植民地を問うている。
よって正解は1607年にヴァージニアに建設されたジェームズタウンである。
- 25 オスマン帝国にスペインを中心とするキリスト教徒連合艦隊が勝利したのはレパントの海戦(1571)である。この背景として、レパントの海戦の約30年前にキリスト教徒連合艦隊がオスマン帝国に敗れたプレヴェザ海戦(1538)も押さえておくこと。

【2】

解答

- A 1 ハ 2 ニ 3 イ 4 ニ 5 イ 6 ロ
- B 1 アカデミー＝フランセーズ 2 治安判事 3 イヴァン3世
4 高等法院 5 ディーワーニー

解説

ヨーロッパにおける主権国家体制の成立に関する問題。細かい知識も散見されるが、まずは基本的な内容についての問題で失点しないことを心掛けよう。リード文は17世紀のヨーロッパの国家形成についてよくまとめられているので、設問に関する部分以外も読み込んでおくとよい。

- A 1 かなり細かい。メッス・ヴェルダン・トゥールはアルザス地方ではなくロレーヌ地方に属する。
- 2 これもやや細かい。ハプスブルク家は1273～1308年にも神聖ローマ帝国皇帝に選出されている。1438年以降、神聖ローマ帝国が消滅する1806年までハプスブルク家が神聖ローマ皇帝位を世襲した。
- 3 ユグノー戦争は1562年に、新旧両教徒の流血事件によって始まったとされる。旧教徒が新教徒を大量虐殺したサンバルテルミの虐殺は1572年の出来事であり、以後ユグノー戦争はさらに複雑化した。
- 4 審査法制定(1673)、人身保護法制定(1679)、権利の章典の制定(1689)についてはすぐに年代や前後関係が想起できるが、残る2つがやや細かい。イングランド銀行は1694年に創設された。イングランドとスコットランドが合併されたのは、1707年の大ブリテン王国成立においてである(それまでは同君連合であった)。
- 5 スペイン継承戦争(1701～13)の講和条約であるユトレヒト条約において、スペインはイギリスにジブラルタル、ミノルカ島を割譲した。
- 6 かなり細かい。イギリスは1703年にポルトガルとメシエン条約を結び、対ポルトガル貿易で他国より優位に立った。
- B 1 リシュリユーはルイ13世の宰相を務め、貴族勢力を抑えて国王の中央集権化を進めた。1635年にはアカデミー＝フランセーズを組織し、フランス語の研究を奨励した。
- 2 やや細かい。テューダー朝の時代には、地方のジェントリらが治安判事に任命され、地方行政や裁判を無給で担当し、中央集権化を支えた。
- 3 1494年時点でモスクワ大公国を支配していたのはイヴァン3世である。

- 4 高等法院は13世紀以降に整備されたフランスの最高司法機関であり、フロンドの乱において有力貴族らの拠点となった。
- 5 1765年、イギリス東インド会社はベンガル太守を破り、ベンガル・ビハール・オリッサの徴税権とベンガル地方の支配権を奪った。この徴税権をディーワーニーという。